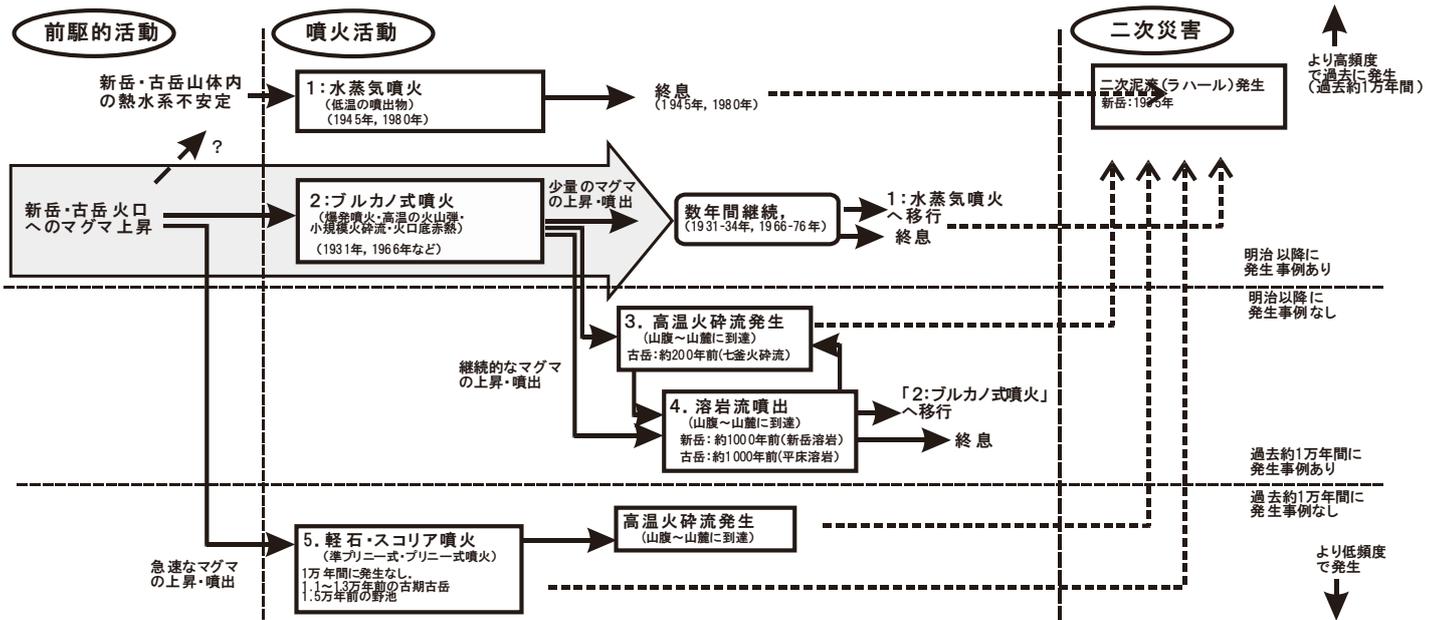


2015年8月21日

口永良部島火山噴火推移図

過去の噴火履歴に基づき、口永良部島火山の噴火活動推移パターン図を作成した。

口永良部島火山で過去に発生した噴火推移ツリー図



本図は、2007年発行の「口永良部島火山データベース」に収録されている噴火推移パターン図を改訂したものである。主な改訂点は、活動低下に伴うより小規模な活動への移行パターンを加えた。

現在、少量のマグマの上昇・貫入によって引き起こされたブルカノ式噴火～水蒸気爆発が複数回発生し、小規模・やや低温の火砕流が発生した状態にある（灰色矢印）。

過去の履歴から推測すると、数年かそれ以上このような活動を間欠的に続ける可能性が高い。マグマが引き続き供給されるならば、より規模の大きなブルカノ式噴火や高温の火砕流の発生、溶岩流出などが予想される。マグマや高温のガスの供給が低下すれば、熱水系の活動が顕著になり、熱水系の不安定による水蒸気噴火（1980年など）を経て活動を停止すると予想される。

数100年前～1000年前に古岳・新岳で発生したような、より規模の大きなブルカノ式噴火や、主にマグマの破片からなるようなブロックアンドアッシュフロー型の火砕流の発生には至っていない。